

第 55 回東大阪大会のお知らせ 第 1 報

第 55 回大会の日時と会場が決まりましたのでお知らせします。大会詳細は決まり次第学会ホームページに掲載します。

日時	2019 年 8 月 31 日(土) 9 月 1 日(日)
場所	近畿大学(東大阪キャンパス)大阪府東大阪市小若江 3-4-1

対話と反想、オープンダイアログとリフレクティングは、社会的排除と差別に対してなにができるか？

【続きで、刷新版】

大会準備委員長 滝野 功久

今回は、昨年の大会が台風で未消化な形で終わったことを、**改めてやり抜くものです**。もちろん、同じことをするのではなく、**かなりのヴァージョン・アップをして、やり方も内容も、色々工夫したい**と考えています。

前回以上に全体をグループで行うワークショップ方式にします。そこでできるグループ は、集まって来る人々によってまた大きく変わって来ますので、たとえ類似のプログラムで も、**相当にあるいは全くちがった展開になる**と思います。

そして、大会の前には、**反想法（リフレクティング）の実際を具体的に体験できる簡単な 研修を大会とは別途に用意したい**と考えています。これについては、予定が決まり次第、改めてネットを含めてお知らせいたします。

この大会のカギとなる「オープンダイアログ」と「リフレクティング」は、ご存知の方も多いと思いますが、北欧の精神科医療保健活動や家族療法の実践の中から生まれてきたもので、大変厄介と考えられていた精神障害の危機的状況に対しても、薬物や拘束と介入をほとんど使わずに、大きな成果を確実に出していることで、数年前から世界的にも注目されてきているものです。

しかし、オープンダイアログと、特に「**反想**」=リフレクティングは、それが生まれて 来た領域・分野にとどまることなく、**対人援助全般はもちろん、組織刷新・地域活性化・紛争 解決、そして持続可能な社会のための市民運動など実に広範な領域においても活かせる**ところをもっています。さまざまな問題・課題に対して、現場の課題に合わせて、工夫しながら色々応用して使うことが可能なものです。

ただし、それらを対象操作のためのテクニックとしての手法としてだけ捉えてしまうと、最初はうまく行ってもすぐに有効でなくなり、見向きされなくなるのでは、と実はかなり心配しています。反想=リフレクティングは、確かに手法的側面があり、何度も実地で訓練して、身に 着けていくものですが、**その土台には、課題に対しての《人と人との対等性》や、人々の身体の高多様性ばかりか、《環境と文化の高多様性を尊重する》思想がしっかりとあります**。それらを深く 理解しないでは、多くの場合と同じく表面的な形だけのものになってしまい、現場のなかでの応用や実際の変化をもたらせるような展開は難しいと思います。それでなくとも既存の体制からの 無視・黙殺あるいはすり替えといった大きな抵抗は、しつこく続くにちがいありませんから。

これまですでに何度も言いましたが、**オープンダイアログによる対話や リフレクティング=反想は、私たちが当然として来た専門家のあり方や臨床心理（学）の通念をはるかに越えて、セラピーや個と集団のパラダイムをひっくり返す力を秘めています**。

問題は個の内部の病巣から現れていて、それに対して早期に有効な治療を施すと言った従来の医学的モデルでコトを視ないのはもちろんですが、問題の正確なアセスメントと有効な対処法の立案とその効果的な実現こそを（あるいは、だけを）専門家の仕事ととらえることにも、疑問符を付け加えます。と言って、そういう役割の専門性は不必要と言うことではありませんが…

そして、問題を個人と責任とにすぐに結び付けしないで、問題そのものとして外に出してみること、個々人の歩んできた道のりを常に大切にとらえながら、人と人ばかりではなく、人と自然や、人とももの関係のなかで、今ある事態を考え、与えられた枠組みとは別のものから視れば、どのような物語が可能なのか、そうした

ことに関心を抱きます。その意味で、**エヴィデンスベイストの発想とは別のナラティブ・アプローチの実践**でもあります。

このアプローチは、出現すること（たとえば症状）の数値化に努力するよりも、周りとの対話と交流を通じて、もっと違った見方や発想をいくつも呼び込んだり汲み取ったりすること に、体験を味わうプロセスに一層の関心を注ぎます。場面や言葉を替えてみることで何が違って 来るか試してみることも積極的にやります。**エラーがあってもミスがあっても、小さな逸脱があっても構わないとして、ちょっとした新しいことを試みようとするのです。**すると**タイミングが合えば、一挙に新しい窓が開くことがあります。**そうでなくとも、最初**はわずかでも、継続するなかで着実な変化を生み出して行くものです。**大会自身がそうした機会として生きることを願っています。これを読み、大会に参加しようとしている方にとって、そのこと自体が、ほんの少しでも何かの新しい出発点として感じ取られるようなものにするには、どうしたらいいかと実は考え続けています。

日臨心では、2 年前の茨城大会では斎藤環さんと呼んで、オープンダイアログをテーマにしたワークショップ・全体会をしました。私自身も、オープンダイアログで使われている反想法＝リフレクティングなどを活かしたワークショップを京都と東京を中心に続けてきています。これまでの展開をみますと、それなりの成果を得てきていますが、現実にはその実践の広がりや深まりにおいては、心配なことも結構あります。上に書いたことだけでなく、その発想や手法が、シンプルであるために、すぐに分かったつもりになってしまうことが結構多いということもその一つにあります。そうしたことも踏まえて、今回の東大阪でのワークショップを中心にした大会は、初めての人にも、既にかなりの体験をしている人にも、大きく意味ある、今後を楽しみにできるものにしたいと強く願っています。そのために不可欠なことは、**参加・反想・共有**です。

以下に、前回大会に沿った仮のプログラムを載せますが、これはたたき台で、これからいろいろ変更・修整して行くものです。普通だと、今の時点でこんな状態で大丈夫かと言われそうですが、OK です。オープンダイ

アログとオープンスペース*の精神でやって行きますので、 あらかじめキッチリと決め過ぎないことこそが
一番大切なのです。

皆さんからの提案などで、対話をしながら準備して行きたいと考えています。 もちろん、全く新しい提案と
なると、時間・予算・物理的空間などの制約や条件もありますので、 簡単には実現できないことも多いでし
うが、しかし、そうしたものがあつたことは取り上げられます。 どうぞ、遠慮なく提言や問い合わせをして
ください。前回大会のコメントなども歓迎します。

9:00 10:00		12:30		2:00		3:00		6:00	
8/31	受付	メインテーマ と OD/RF 解説 (A)	ヒアリングヴォ イスと オープンダイア ログ (B)		RF の実習/実践 (C)			懇親会	
			個別発表あるい は ポスターセッシ ョン		当事者研究 1 (D)				
9/1		RF の応用と課 題 (E)	自由な 交流会 昼食	全体会・ ワークショップ 大会テーマに基づい た自発的少グループ での話し合い (G)			総会		
		当事者研 2 (F)							

- RF：反想（法）＝リフレクティングとは何か？
- ヒアリングヴォイシズ を巡る世界の動向とオープンダイアログ
- リフレクティングの実習/実践
- 当事者研究 1
- 反想法（RF＝リフレクティング）で何ができるか？応用と課題
- 当事者研究 2

*個人のイニシャティヴができるだけ発揮できる場づくりの手法として、同じころにアメリカで生まれたミー
ティングの革新の最初の一つであつたオープンダイアログとは別に オープンスペース・テクノロジー
(OST)という考え方がありますが、これも全体のなかで一部分でも取り入れて行う予定です。

＊ ＊見知らぬカタカナ語が多くでていますが、それらを知らなくとも、充分に楽しく参加でき、これまでの学術大会とは一味違ったものにできたらと願っています。